

共通性から探る柵の姿

佐川 正敏氏

引き続きまして、えさし

郷土文化館長の相原康二

さんから、安倍氏と清原氏の

共通点などを考慮したご報

告をお願いしたい。

相原 康二氏

鳥海柵は言うまでもなく、陸奥話記の記述や胆沢城との位置関係から考えて

も、たくさんあったであろう

う安倍氏の柵の中でも相当

格の高い柵であったことは間違いないだろう。鳥海柵の大規模な発掘調査は、昭和47年に行われた二ノ宮後地区の東北自動車道関係の調査が始まりだったと思う。以降、柵列などが出たと同時に、たくさん



安倍、清原、奥州藤原の3氏の共通性を指摘する相原康二・えさし郷土文化館長

Ⅶ

パネル討論要旨

要がある。

安倍氏も仏教を相当保護したことは確かであるので、この広大な柵の中に信仰関係の空間があることも問題意識として当然持っておかなければならない。政治の拠点の柵が同時に信仰の拠点でもあり、手工業生産の場でもあるという見方が、安倍氏から奥州藤原氏の柵については必要だろう。

呉教育委員会在職中は、柳之御所遺跡の発掘から保護について関わってきたが、それ以降の世界遺産などを巡る動きや調査の進展が重なり、安倍氏、清原氏、平泉藤原氏についていろいろな事実が分かり、その中に

はいくつかの共通性があることも見えてきている。平安後期から末にかけて、在地勢力の拡大という時代の流れに乗ってのし上がってきたという最大の共通性に加えて、仏教を3氏ともに保護していた。

安倍氏時代の寺院跡には長者ケ原廃寺跡や泥田廃寺跡があり、国見山廃寺の規模が拡大に転ずるのも10世紀後半くらいから。その背景に安倍氏がいたことは十分に考えられるだろう。国見山廃寺のピーク時は11世紀の後半から末だと分かっている。清原氏の存在を考える必要がある。

こういうことから、柵の中における仏堂あるいは堂宇の存在を意識的に追跡すべきだろう。また、3氏ともに居館の立地、構造については大変強い共通性をもっている。とりわけ、大

鳥井山と柳之御所遺跡は丘陵を取り込んでいるところから、うり二つのような気がする。

さらに、3氏ともに平泉周辺に拠点を定めている。清原氏が前九年合戦の後に奥州側の支配も任せられた時の拠点は、おそらく今の衣川と平泉の境の瀬原地区にあったという推定がある。安倍氏の拠点は、「吾妻鏡」に一族11人の居館が衣川沿いに建っていたとあるので、衣川地区だろう。奥州藤原氏はいくまでもなく、平泉、平泉と瀬原と衣川というのはほぼ同一地点と言え、共通点とみなしていいだろう。3氏は敵対関係にあったという場面もあるが、考古学的に見ると意外に共通性もあるというところへの検討も必要だろう。

(つづく)

金ケ崎の国指定史跡鳥海柵跡

15

考察 全盛期の中心的建物

2017年度 シンポジウムより

登壇者

千田嘉博氏

本堂寿一氏

大平 聡氏

相原康二氏

高橋 学氏

箱崎和久氏

(奈良文化財研究所都城発掘調査部遺構研究室長)

コーディネーター

佐川正敏氏

パネルリスト

(東北学院大学教授)

(奈良大学教授)

(国史跡鳥海柵跡整備委員会委員長)

(宮城学院女子大学教授)

(えさし郷土文化館長)

(秋田県埋蔵文化財センター副所長)